# 第１回みやぎ観光振興会議登米圏域会議　概要

## （１）圏域の観光の現状（従来からの地域の現状や圏域会議で意見が出たコロナ影響等の現状）

○　飲食，宿泊，サービス業すべてコロナの影響大。タクシー業界は維持がやっと。生き残れるか。
○　大震災前と比し統計的には観光客入込数が増えているが，地元事業者にはそうした実感はない。
○　滞在型ではなく，通過型観光客がほとんど。風土マラソン等のイベント参加者も来て帰るだけ。
○　大手旅行代理店の社員が登米市のことを知らない。知っていても明治村と，話題になった長沼。
○　大手旅行代理店と契約している観光施設がない。JTB で契約している施設はルートイン登米のみ。
○　以前は大型バス観光が主だったが，最近は中型バスの申し込みが増えている。少人数化している。
○　宿泊観光客がほとんどなく，ビジネス客が主。加えて帰省客，冠婚葬祭に来た人が泊まる程度。

## （２）圏域の観光の課題（従来から地域が抱える課題や圏域会議で意見が出たコロナ影響等の課題）

○　自然，公園はお金を使う場面があまりない。明治村などはお金を使うキャッシュポイントがたくさんある。登米市の観光，観光地は何なのか。いま一度，市民を挙げて議論する必要がある。
○　風土マラソン等のイベントに市外，県外から人は相当数来ているが，その人たちをどう登米の観光名所や体験型観光等に繋げていくのかが課題。二次交通がない。
○　個々で観光とか地域おこしに取り組んでいる人はたくさんいるが，いいアイディアがあっても個々人で実現するのには限界がある。まとめてくれるリーダーが必要。

## （３）委員からの主な意見（具体的な施策ほか）（委員から出た具体的な施策への意見など）

○　登米市は農業大国なので，農業体験，農泊も含めてすべてを観光として捉え活用できれば，他地域にはない登米独自の観光コンテンツができるのではないか。
○　一般客のほかに，企業の社会貢献活動，福利厚生，社員研修等の受け入れを進めていきたいが，一企業では話を聞いてくれないことが多いので，行政の力を借りながらぜひ実現していきたい。
○　欧州のボート会場は，リゾート化している。オリンピックでのポーランドのボートチームの受け入れ，支援だけにとどまらず，長沼をリゾート化する夢があってもいい。
○　クラウドファンディング２割増しではインパクトに欠ける。企業側に１割の負担を求めてもいいので３割増しなど，もっとインパクトのある設計にしてくれたらと思う。

## （４）回復戦略や成長戦略などの方向性・具体的な施策等（各事務所案）

○　イベント参加客等の観光地等への二次誘導について

　風土マラソン等のイベントに外国人も含め県外客の参加が相当数あるものの，イベント参加のみで終わっていることから，登米市産の食，飲が楽しめる，農業，林業体験もできる観光コンテンツ等を造成し，参加客等の市内観光地等への二次誘導と宿泊者の増加を図っていく。

○　「みやぎの明治村」の観光振興について

　登米市の中核的な観光地である「みやぎの明治村」は，観光客が最盛期から大きく減じていることから，ＮＨＫ朝の連続テレビ小説「おかえりモネ」のロケ地という絶好の機会を生かし，気仙沼市と一体となって効果的なプロモーションを仕掛けていく。

○　観光振興リーダーの設置，育成について

　平成 17 年に 9 町合併した登米市は，それぞれの地域で地域おこし，観光振興に関わっている人はいるが，全体的にコーディネートできるリーダー的な人がいないことから，観光地域づくりのプロジェクトマネージャーとなるべき人材の採用，育成を支援していく。